



ワーキンググループの活動について	1
日本食物繊維研究会第4回学術集会プログラム	2
Topics ; 第6次改定日本人の栄養所要量—食事摂取基準—	7
事務局だより	8

ワーキンググループの活動について

日本食物繊維研究会
会長 印南 敏

日本食物繊維研究会は食物繊維に関する諸問題を自由な立場で研究し討論する場として設立されました。ワーキンググループは当研究会の活動の一環として、昨年度から発足しました。現在、次の三つのグループがそれぞれのテーマの下に問題点の整理、集約等の討議を進めています。

1. 定義・用語・分類検討部会 : 部会長 桐山修八 (大妻女子大教授)
2. 定量法検討部会 : 部会長 印南 敏 (東京農大客員教授)
3. プロジェクト研究検討部会 : 部会長 池田義雄 (慈恵医大教授)

上記3部会の中、1と2の部会については昨年度、郡山女子大学における第3回学術集会において、中間報告を行いました。この折は事務的手続きの不備もあり、会員の皆さんへのお知らせが適切でなかったこと、また、過密なスケジュールの中に組み込んで頂いたことなどもあり、討論時間が少なかったことを反省しております。

今年度はプロジェクト研究検討部会も活動を開始しましたので、併せて中間報告をさせていただきます。いずれの部会も研究会の独自性や、ユニークさを示す上で、重要なテーマですが、中でも第1部会は食物繊維様生理作用を示す難消化性化合物が次々に登場するようになり、定義はもちろんのこと、用語・分類なども含めて国際的にも国内的にも論議を呼んでおり、難しい問題を抱えています。昨秋も多くの会員から意見が出されました。今秋、筑波で行われる第4回学術集会では、前回の教訓を生かし、予めプログラムに組み込み、かなりの時間を割り当てられました。会員の皆さんからの活発なご討論、ご意見を期待しております。

第4回学術集会プログラム

会 場 筑波大学（茨城県つくば市）

学術集会長 山下 亀次郎（筑波大学名誉教授）

1. 行事日程

11月12日（金）

9:35	開 会（大学会館特別会議室）
9:40～12:00	一般講演発表（同 上）
12:00～12:30	評議員会（同 上）
12:30～13:30	昼 食（大学会館食堂等）
13:30～14:00	総 会（大学会館特別会議室）
14:10～17:40	シンポジウム（同 上）
18:00～20:00	懇 親 会（大学会館レストラン）

11月13日（土）

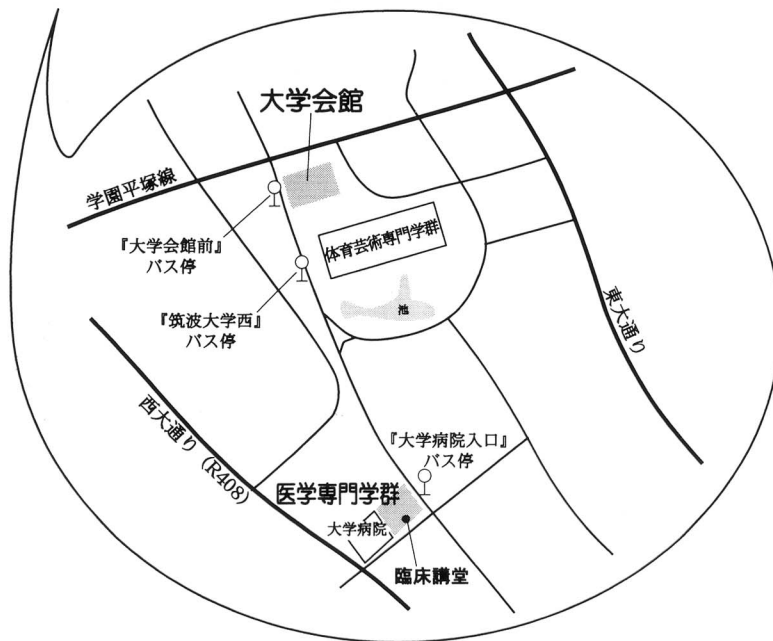
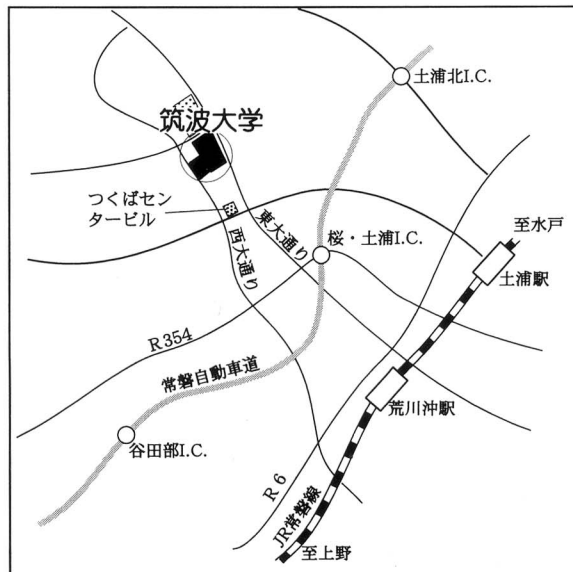
9:10～10:30	一般講演発表（医学学群棟臨床講堂C）
10:30～12:30	ワーキンググループ（同 上）
12:30～13:30	昼 食（食堂等）
13:30～15:00	パネルディスカッション（医学学群棟臨床講堂C）
15:00	閉 会

2. 参加者への御案内

- 1) 学術集会および総会の受付は、会場前ロビーにて行います。参加費（講演要旨集込み）は、正会員3,000円、学生会員1,500円、非会員4,000円です。
 - 2) 呼び出しは特別な場合以外は行いません。クロークの設置は行いません。
 - 3) 懇親会を第1日目シンポジウム終了後に大学会館レストランで行いますので、是非ご参加ください（会費3,000円を当日いただきます）。
 - 4) 連絡先 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学臨床医学系内科 鈴木誠司 TEL:0298-53-3058,3053, FAX:0298-53-3053
筑波大学大学会館 TEL:0298-53-3034,3035
 - 5) 学術集会会場への交通案内
筑波大学大学会館（第1日目）
 - ・ JR常磐線（土浦駅下車）
関東鉄道バス 土浦駅西口（②番乗場）から「筑波大学中央行」乗車（約40分）
 - ・ JR常磐線（荒川沖駅下車）
関東鉄道バス 荒川沖駅東口から「筑波大学中央行」乗車（約40分）
 - ・ JR常磐線（ひたち野うしく駅下車）
関東鉄道バス ひたち野うしく駅東口から「筑波大学中央行」乗車（約40分）
 - ・ 高速バスを利用の場合
東京駅八重洲南口から「つくばセンター行」（約60分）
つくばセンター（①番乗場）から「筑波大学中央行」乗車（約15分）
- ◎上記バスを利用の場合は「大学会館前」で下車してください。また、タクシーの利用も便利です。

筑波大学医学学群棟臨床講堂C（第2日目）

バス利用の場合は「附属病院入口」で下車してください。また、タクシーの利用も便利です。



6) ホテル等

- ・筑波第一ホテル (TEL:0298-52-1112) つくば市吾妻1-1364-1
(多くの来賓の方が泊まります)
- ・トレモントホテル (TEL:0298-51-8711) つくば市天久保3-19-9
(会場には最も近いホテルです)
- ・ホテルサンルートつくば (TEL:0298-52-1151) つくば市花室1145-3
(比較的近く、利用しやすいホテルです)
- ・その他についてはつくばセンタービルJTB(TEL:0298-52-5582)でお尋ね願います。

3. 一般講演プログラム

11月12日 (金)

時刻	演題番号	演 題
座長：坂田 隆 (石巻専修大・理工)		
9:40	1	穀物細胞壁を構成するフェルラ酸の消化管での吸収 趙朝輝, 三木多香子, ○太田剛雄, 江頭祐嘉合, 真田宏夫 (千葉大・園芸)
10:00	2	ヒトにおける各種糖アルコールの消化吸収性と呼気水素ガス排出の 関係 ○河島崇明, 中村禎子, 奥 恒行 (県立長崎シーボルト大・栄養健康)
座長：奥 恒行 (県立長崎シーボルト大・栄養健康)		
10:20	3	トウモロコシフスマ由来食物繊維の食物繊維としての機能に及ぼす 粒度の影響 ○海老原清, 中本義久, 岸田太郎 (愛媛大・農)
10:40	4	ブタ盲腸内容物のpHが乳酸, こはく酸の消費にあたえる影響 稲垣明子, 佐藤美穂, ○坂田 隆 (石巻専修大・理工)
11:00	5	こはく酸が結腸上皮細胞の増殖にあたえる影響 ○稲垣明子, 堀江正智, 坂田 隆 (石巻専修大・理工)
座長：山田 和彦 (国立健康・栄養研究所・食品科学部)		
11:20	6	ヒトにおける低分子化アルギン酸ナトリウム含有コーンポタージュ 摂取による便重量の増加効果 ○中村禎子, 奥 恒行 (県立長崎シーボルト大・栄養健康)
11:40	7	便秘は本当に健康に悪いのか? ○徳井教孝, 溝上哲也, 吉村健清 (産業医大・臨床疫学)

11月13日 (土)

時刻	演題番号	演 題
座長：池田 義雄 (慈恵医大・健康医学科)		
9:10	8	難消化吸収性脂肪代替食品素材のビタミンA生体利用性に及ぼす影響 ○山田和彦 ¹ , 成田真由美 ¹ , 池上幸江 ^{1,2} (¹ 国立健康・栄養研究所・食品科学部, ² 大妻女子大学・家政学部食物学科)
9:30	9	食物繊維の摂取は血中ならびに尿中プリン体レベルを低下させる ○田所忠広, 古口 崇, 前川昭男 (東京農大・生物応用化学) 和田政裕, 印南 敏 (東京農大・栄養科学)
座長：徳井 教孝 (産業医大・臨床疫学)		
9:50	10	難消化性デキストリンの2型糖尿病患者における血糖コントロールに及ぼす効果 —血糖自己測定による検討— ○森 豊 (国療東宇都宮病院・内科) 池田義雄 (慈恵医大・健康医学科)
10:10	11	OLETFラットの糖尿病発症と進展に及ぼすウルトラ寒天 [®] 長期摂取の影響 ○井上裕子 ¹ , 水貝和也 ² , 戎 五郎 ² ((株)大塚製薬工場 ¹ 栄養研究所, ² 大衆商品研究所)

4. シンポジウム

「レジスタントスターチ (RS) の開発とその意義」

11月12日 (金) 14:10~17:40

座長：桐山 修八 (大妻女子大学)

1. RSの開発とその意義：Overview
桐山 修八 (大妻女子大学)
2. RSの生理的意義
早川 享志 (岐阜大学・農学部食品科学)
3. RSの大腸発酵制御
森田 達也 (山之内製薬 (株) コンシューマ製品研究所)
4. RSの開発とその特性および応用
—湿熱処理ハイアミロースコーンスターチについて—
伊藤 剛 (日本食品化工 (株) 研究所)
5. Resistant Starch and the Colon-Dietary Fibre or Fibre Equivalent?
D. Topping (CSIRO, Australia)

5. ワーキンググループの活動について

「中間報告ならびに討論」

11月13日(土) 10:30~12:30

座長: 印南 敏 (東京農大)

1. はじめに
印南 敏 (東京農大)
2. 定義・用語・分類検討部会
部会長 桐山 修八 (大妻女子大)
3. 定量法検討部会
部会長 印南 敏 (東京農大)
4. プロジェクト研究検討部会
部会長 池田 義雄 (慈恵医大)
5. 総合討論

6. パネルディスカッション

「生活習慣と高脂血症」

11月13日(土) 13:30~15:00

座長: 山下 亀次郎 (筑波大学名誉教授)

1. 高脂血症はどうしておこるか
松島 照彦 (筑波記念病院内科 副院長)
2. 高脂血症と食物繊維—新規素材の開発に向けて
板倉 弘重 (国立健康・栄養研究所 名誉所員)
3. 討 論

7. 講演者 (一般演題) , 討論者, 座長へのお願い

- 1) 講演時間は発表15分, 討論5分です。発表用のスライドプロジェクターは1台用意致します。発表者は発表の30分前までにスライド受付へお越し下さい。
 - 2) 討論者は, マイクの前にお立ち下さい。また, 所属と氏名を述べてからご発言下さい。
 - 3) 座長をお務めいただく先生は当該時間の30分前までに出席している旨を受付にお知らせ下さい。演者の指定時間を厳守するようお願い致します。
-

Topics

第6次改定日本人の栄養所要量—食事摂取基準—

第6次改定日本人の栄養所要量—食事摂取基準—が策定されました。従来は栄養欠乏症の予防を主眼としたものでしたが、今回は過剰摂取への対応もできる限り考慮したものとなっています。欠乏症を防ぐ必要量（所要量）とともに、過剰摂取による健康障害を防ぐ上限値（許容上限摂取量）の設定など総称して食事摂取基準としています（参考：http://www.mhw.go.jp/shingi/s9906/s0628-1_11.html）。

食物繊維は、五訂日本食品標準成分表（新規食品編）においてヒトの消化酵素で消化されない食品中の難消化性成分の総体とされ、主要成分は炭水化物であり一部非炭水化物も含まれます。食物繊維の所要量を策定するに際して、①国際間で食物繊維の定義、測定方法といった基本的な事項が統一されていない。②ヒトにおける具体的食物繊維摂取量と健康との関連研究が未だ不十分である。③年齢別、性別、身体活動別の個別階層について所要量を策定するには至っていない。そのため④現在の知見に基づき目標摂取量を策定するにとどめています。すなわち今回の改訂においても数値設定は5次改訂と大きな変化はありません。食物繊維の目標摂取量策定には、①食物繊維算定法はProsky変法により、②日本人の食物繊維摂取状況の現状と推移、③被験者を用いた食物繊維負荷試験、④生活習慣病との関連を検討して総合的に行っています。食物繊維の目標摂取量として、①1日当たり成人として20～25g（10g/1,000kcal）とすることが望ましい。②幼児や学童、高齢者についても1,000kcal当たり10gを目安とすれば適当とみなされる。③健康な成人においては穀類、野菜、豆類、果物など通常の食品から摂取する場合には、目標摂取量の約2倍程度までは安全と推定されるとなっています。今後の方向について、①日本人の食物繊維摂取状況に関する実態把握のため、年齢別（小児、成人、高齢者）の目標摂取量設定のために、情報収集、研究の推進が必要とされます。②食物繊維を含む炭水化物摂取について、健康の増進、生活習慣病発症予防に果たす役割に関する研究情報の収集が引続き必要とされます。③糖アルコール、難消化性オリゴ糖などを一度に多量に摂取すると下痢、軟便などの不快な状況を呈することもあるので、難消化性炭水化物の摂取上限量については、今後も数値の問題を中心に検討を要し、情報の周知と使用者への健康教育が必要とされます。④難消化性澱粉についても、日本人の主要なエネルギー源である穀類の摂取量低下の現状において考慮されるべき課題です。さらに⑤食物繊維の所要量に関してはエネルギー小委員会で検討されていますが、栄養素として炭水化物の重要性、食物繊維の性質から、今後は栄養所要量策定において炭水化物小委員会等を設立しその中で検討することも必要と思われます。

（国立健康・栄養研究所 山田和彦）

編集委員会より

本年11月12, 13両日に渡り筑波大学・山下亀次郎名誉教授を集会長に第4回学術集会在開催されます。一般演題に加え, レジスタントスターチをテーマにしたシンポジウム, 医学系の先生方によるパネルディスカッション, そしてワーキンググループの中間報告など企画が盛り沢山となっています。会員の皆様はもとより関心ある研究者, 企業の方々をお誘いの上多数の御参加を期待しております。

また, 前号より装いも新たになった研究会誌はいかがだったでしょうか? 第3巻2号は12月末発行予定です。今後も定期的に内容のある研究会誌を発行していくためにも会員の皆さまの論文の投稿を是非ともお願いいたします。

会員状況：平成11年10月25日現在

正会員	214名	学生会員	5名	賛助会員	36社
団体会員	5団体	名誉会員	6名		

【賛助会員】

参松工業株式会社	太陽化学株式会社	株式会社荻野商店
全国精麦工業協同組合連合会	大日本製薬株式会社	日本食品化工株式会社
佐合食品工業株式会社	カルター・フードサイエンス株式会社	大塚製薬株式会社
雪印乳業株式会社	伊那食品工業株式会社	財団法人日本こんにゃく協会
株式会社はくばく	日本ケロログ株式会社	株式会社林原生物化学研究所
社団法人菓子総合技術センター	松谷化学工業株式会社	サントリー株式会社
オリヒロ株式会社	株式会社カイゲン	富士バイオ株式会社
日清製粉株式会社	山之内製薬株式会社	日本甜菜製糖株式会社
武田薬品工業株式会社	日本バイオコン株式会社	旭化成工業株式会社
株式会社横浜国際バイオ研究所	第一出版株式会社	大塚製薬株式会社製品部
清水化学株式会社	日清食品株式会社	三和澱粉工業株式会社
雪印食品株式会社	昭和産業株式会社	株式会社日健総本社

(順不同)

日本食物繊維研究会 JDF News Letter No.8

発行日 : 1999年10月25日
 発行人 : 日本食物繊維研究会会長 印南 敏
 編集人 : 奥 恒行、青江誠一郎
 事務局 : 日本食物繊維研究会事務局
 〒162-8636 東京都新宿区戸山1-23-1
 国立健康・栄養研究所 食品科学部内
 TEL: 03-3203-5601, FAX: 03-3203-7584
 印刷所 : 株式会社 交友社
 〒136-0072 東京都江東区大島8-38-5

